

2020 年度第1 回「ジャワ語及び東南アジア諸語テキストにみる宗教変容—イスラーム化過程における国家の戦略と役割」研究会

- 日時：2021年2月23日（火） 13:00–16:30
- 場所：オンライン
- 使用言語：日本語
- プログラム

**13:00–14:00 宮崎恒二（東京外国語大学名誉教授，AA 研共同研究員）**

「ジャワ語テキストにおける神話と歴史 —Watu Gunung story の位置づけ—」

**14:00–15:00 新江利彦（AA 研フェロー）**

「チャムのイスラーム的宇宙観：サカライ・ポークック（極の哲理）を読む」

**15:10–16:10 黒田景子（AA 研共同研究員，鹿児島大学）**

「『タリク・パタニ（パタニ古記）』にみるマレー半島中部の港市世界」

## 要旨

宮崎恒二「ジャワ語テキストにおける神話と歴史—Watu Gunung storyの位置づけ—」

宗教と密接な関係にある時間の概念化に着目し、運勢暦に関わる神話が、ジャワ語テキストの中で、どのように位置づけられているか、という点に関する考察を行った。

ジャワの運勢暦Pawukonは、30の七曜（wuku）を基礎とする運勢暦であり、その起源はWatu Gunung神話に帰せられる。暦を構成するサイクルとしてのwukuは、すでに10世紀の刻文などにも記載されており、wukuの名称などから見ても、外来ではない土着の要素と考えられる。他方、Watu Gunung神話は、ジャワにイスラーム王国が誕生した16世紀以降に成立したとみられるSerat Kandhaと総称されるテキスト群に登場し、18世紀以降のbabadと呼ばれる年代記的なテキストにも受け継がれている。

Watu Gunung神話が、Serat Kandhaテキスト群に記載された背景として、二つの可能性が考えられる。一つは、作成されるテキストのスタイルが、イスラーム浸透以前と以後では異なっていることである。イスラーム流入以前に、すでにインドよりもたらされた宇宙生成神話やパンテオンの成立に関するテキストが見られるが、それに加えてジャワの民話や神話、王統に関係する伝説が徐々に記載されるようになっていた。

他方、イスラームの影響を受けたテキスト群では、インドからもたらされた神話のみならず、ジャワ固有の神話や伝承を、Adamを起点とする系譜に繋げようとする試みが見られる。一般的に、イスラーム流入と共に、歴史叙述が始まったとされることが多いが、より

厳密には、民話や出来事を系譜に沿って位置づけようとしたのである。その過程でWatu Gunung神話も記載されたと考えられる。しかし、Serat Kandhaからbabadへの展開を考えると、天と地、神と人、稲とその厄災といった、いわば世界観的を確立しようとする試みから、現実の出来事や政治状況に対応すると考えられる記載へと変化している。

Wukuという暦が古くから存在したことには疑いの余地はないが、Watu Gunung神話については、単純に古くからの民話とは断言できず、いつ頃、どのような経緯で生まれたか、まだ解明に至っていない。

### 新江利彦「チャムのイスラーム的宇宙観：サカライ・ポークック（極の哲理）を読む」

#### 1, はじめに

西暦192年ごろ建設されたチャンパー王国（チャム国、占城国）では、中国（南漢）から独立してベトナム帝国（交趾国、のちの大越国）を建設したゴー・クエン（呉権）の死去と、その後継者争いにおける王子ゴー・ニャット・カイン（呉日慶）への加担（及びそのチャンパー王の継承）により、968年以降、大越との軍事衝突が続き、占城人及び占城夷人と呼ばれる人々の中国海南島への大規模避難を引き起こした。今日のチャム人はベトナム約18万人、カンボジア約17万人と、中国海南島約6000人、計約35万人である。

#### 2, 問題提起

チャム人は、1945年以降の、日本軍及びフランス・インドシナ再占領軍からのベトナム・カンボジア両国の独立達成により少数民族となった。王なきチャム社会では、共産党が比較的宗教に寛容になった20世紀末以降、宗教に関する発言が自由になったが、王家の保護によるチャム語やアラビア語教育がなくなり、イスラーム文献の理解において重大な意味の変容と論争が起きている。ポークックというウジュード的性格とブラフマン的性格を併せ持つ創造者に関する哲学的文章『サカライ・ポークック』（Sakarai Po Kuk）の内容をめぐる、阮玉瓊師（Thầy Achar Nguyễn Ngọc Quỳnh）の発言「靈魂もシヴァも真理が創造した」と、それに対する文玉創博士（Tiến sĩ Văn Ngọc Sáng Putra Podam）の批判はその一例である。

#### 3, 天の書板

2019年に逝去した元・ニントゥアン省チャム文化研究センター研究員史文玉氏（Jaya Amil Apuei Sừ Văn Ngọc）は、民話「イヌ、ヒトを訴えに行く」（2017）において、すべての存在に対するヒトの優越は「アロワハ・アラー」（天の書板, Alauh ala）に定められているとした。しかし、その越訳・英訳は「神々により定められている」であり、読み手にはアロワハ・アラーの意味（天の書板）は伝えられていない。

#### 4, 意味の変容

シャカ暦を意味する梵語Sakarāja (パーリ形Sakarāja) はクメール語やタイ語では単に暦を意味するようになり、チャム語では哲学的な文章を指す語 (チャム形Sakarai) になった。真理を意味するアラビア語Al-ḥaqq (チャム形Aluahuk)、霊魂を意味するAl-ruh (チャム形Awluah)、天の書板を意味するAl-lawh allah (チャム形Alauh ala) はすべてアッラーフの発音の変化とみなされるようになった。阮玉瓊師 (Thầy Achang Nguyễn Ngọc Quỳnh) の発言、「霊魂もシヴァも真理が創造した」を、文玉創博士 (Tiền sĩ Văn Ngọc Sáng Putra Podam) らは「アッラーフもシヴァもポークック=ブラフマンが創造した」ととらえて、逸脱であると批判した。阮玉瓊師はこの誤解に基づく批判に対して文玉創博士が納得するような反論ができなかった。阮玉瓊師の発言自体は『サカライ・ポークック』の内容どおりであった。また「アッラーフもシヴァもポークック=ブラフマンが創造した」という考えはムスリムにおいてはもちろん逸脱であろう。サンスクリットやアラビア語由来の術語は、阮玉瓊師や文玉創博士のような当代最高のチャム知識人においてもほぼまったく理解できていない。だれも間違っただけではなかったが、だれもが間違っただけで、残念な論争が起きたのである。

#### 5, サカライ・ポークック

創造者に関する哲学的文章『サカライ・ポークック』の成立年代は18世紀頃である。成分博士 (Tiền sĩ Thành Phần, 2007: 43 (TP.23), 81 (TP.47) and 136 (TP.67)), 丈文門博士 (Tiền sĩ Trương Văn Môn Sakaya, 2018: 81 (GDT.04), 110 (GH.02), 452 (VMST.4), 454 (VMST.12) and 456 (VMST.19)), TVN.07, TN.27, G.07 など、11の写本が確認されている。今回の発表では丈文門博士から提供されたTN.27を底本とし、GH.02と照合してローマ字転写を作成した。

#### 6, 創造または流出の順序

『サカライ・ポークック』における創造または流出の順序は、①第一物質すなわちヌムムック (非存在) とダノーック (玉座、隠れているポークック)、②真理・霊魂・ロゴスの三位一体、③宇宙の法則、④第一のナビーたち、四大天使、⑤第二のナビーたち、使徒、⑥第三のナビーたち、自然法則をつかさどる神々、⑦第四のナビーたち、賢者たち、⑧天、地および顕現したポークック、顕現した霊魂、⑨生命、⑩宗教職能者たち、である。

#### 7, おわりに

『サカライ・ポークック』における創造の過程にはアッラーフ及び天の書板は登場しない。宇宙の始まりに立ち会うのはヌムムック (非存在) とダノーック (玉座、隠れているポークック) である。ポークックの顕現は、「第一物質 (真理、霊魂、ロゴス?)」よりず

つとあと、第八段階の天地創造であり、生命出現の直前である。このような『サカライ・ポークック』における創造は、新プラトン主義的哲学あるいはイブン・スィーナー哲学における流出説 (Emanationism) のように見え、中国回儒の無極や太極の理解とも通底する。

#### 参考文献

- Burge, Stephen R. 2012. *Angels in Islam: Jalāl al-Dīn al-Suyūṭī's al-Ḥabā'ik fī akhbār al-malā'ik*. London: Routledge.
- Cabaton, Antoine. 1901. *Nouvelles recherches sur les Chams*, Paris: Edition Leroux.
- Putra Podam Vãn Ngọc Sáng. 2020. *Bani Awal: Agama bhuk tik Allāh, Conservation of Cham language and script*. San José: International Office of Bani Awal United States of America.
- Sakaya Trung Vãn Mòn & Shine Toshihiko. 2014. *Cham-Vietnamese-English- Japanese vocabulary*. Tōkyō: Research institute for languages and cultures of Asia and Africa, Tōkyō university of foreign studies.
- Sakaya & Sữ Vãn Ngọc et al. 2017. *The folk tales of Cham people*. Hà Nội: Nhà Xuất bản Văn hóa Dân tộc.
- Sakaya et al. 2018. *The myths and legends of the Cham people*. Hà Nội: Nhà Xuất bản Trí thức.
- Swami Jagadananda. 1949. *Upadeśasāhasri of Śrī Śaṅkarācārya*. Madras: Sri Ramakrishna Math.
- Syamsuddin Arif. 2012. "Divine emanation as cosmic origin: Ibn Sīnā and his critics." *Jurnal TSAQAFAH - Universitas Darussalam Gontor*, 8(2): 331-346.
- Thành Phần. 2007. *The catalogue of Cham manuscripts in Vietnam*. Thành Phố Hồ Chí Minh: Nhà Xuất bản Trẻ.
- Wáng Dài-yú. c1642, published 1904. *Zhèng-jiào-zhēn-quán*. Guǎng-zhōu: Qīng-zhēn-táng. 王岱輿『正教真詮』二卷首一卷.
- Wáng Dài-yú. c1657, published 1904. *Qīng-zhēn-dà-xué*. Guǎng-zhōu: Qīng-zhēn-táng. 王岱輿『清真大學』一卷.
- Wilhelm, Richard & Baynes, Cary F. 1967. *The I ching; or, Book of changes*. New York: Pantheon Books.
- Yoshimoto Yasuko. 2013. "Islamic religious knowledge written in Cham manuscripts." *The annual journal of the Asian cultures research institute - Tōyō University*, 48: 110-103.

## 黒田景子「タリク・パタニ（パタニ古記）」にみるマレー半島中部の港市世界」

本発表では Tarikh Patani という史料を紹介する。「パタニ古記」とでもいうべきこの史料は比較的近年になって南タイのパタニ地域から複数の写本が提供され、一部がマレーシアクアラルンプールのイスラーム文書館に、一部がタイのヤラーのイスラーム財団に納められた Jawi 文字の手書き写本である。1980 年代になっての提供は当地の分離独立運動に絡む紛争下での個人蔵の保管が困難になったことによる。この Tarikh Patani は 16-17 世紀にパタニのスルタンの要請によってイスラーム化以前のパタニとその周辺港市、クメールやジャワなどとの歴史項目について書かれた。パタニの宮廷人である Sheikh Faqih Ali bin Muhammad bin Shafiuddin がアラビア語で執筆し、その序文にはこれがパタニスルタンの史料提供や、リゴール（ナコンシータマラート）の仏教徒の協力によってサンスクリット文書を読み解き、またジャワ人からのジャワ語の読み解きによって成立したとある。このアラビア語版は現存しない。その後パタニからマッカに留学した Sheikh Daud bin Abdullah al-Fathani が 1813 年にこれをマレー語（パタニマレー語）に翻訳したと二番目の序文をつけた。現存するのはこのパタニ・マレー語版である。いまのところこの史料は Jawi をローマ字綴りにしたマレーシア版の Hj. Wan Mohd Shaghir Abdullah による 1987 年のものと、南タイのヤラーで Tengku Ismail と Tengkh Arifin がタイ語に翻訳し、印字版 Jawi 綴りを添付したものに限定されている。近年パタニの著名なウラマーとしての Sheikh Daud の研究やパタニに関する史料の紹介としてマレー語圏で研究書にわずかに取り上げられているが、史料の内容についての調査は事実上進んでいない。内容としてシュリーヴィジャヤやシャイレンドラなどの名前が出てくる他、綴りが異なる部分など精査すべき部分が多くある。本発表では後世に加筆された可能性や別ソースによる表現の違いなどを指摘しつつも、まずパタニの人々が、当地を古い港市であり中国やイスラーム世界からの交易商人があつまり、その行動範囲としてインドシナ半島南部からナコンシータマラート、ジャワまでを捕らえていた世界観を示し、ナコンシータマラート（リゴール）が仏教世界に属し、パタニ以下がマレー・ジャワ世界に属するものと捉えられていることに成立の背景を含め注目したい。マンダラ型の世界図をもつナコンシータマラートのタイ語伝承史料と異なり、Tarikh Patani からはパタニが確定した中心を持たない動的フローネットワーク型の港市関係を持っていたことが見え、この地域の境域性に注目していきたい。

\*\*\*\*\*

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.